

特集

# 野鳥の楽園

## 水辺がもたらすパラダイス

何千km、何万kmも旅をする渡り鳥が、神栖市の水辺で羽を休め、繁殖し、また旅立っていきます。それはここが、温暖な気候に恵まれた水と緑の大地だから。今回は、実は身近な「野鳥の楽園」をご案内します。



飛ぶ宝石とも呼ばれるカワセミ[カワセミ科・全長14.2cm・留鳥]

### 四季折々、いろいろな野鳥に会える！

朝の目覚めとともに鳥のさえずりが聞こえると、爽やかな気分が一日が始まります。ところで皆さんは、鳴き声や姿から野鳥の名前がパッと浮かびますか？ とても身近な存在なのに、遠くの木に止まっていたり、大空を飛び回っていたりすると、じっくり観察するのは難しいもの。そのため、名前や特徴を覚える機会もなかなかありません。

でも、それではもったいない。日本には約580種の野鳥がいますが、そのうち市内で約260種も見られるのです。鹿島灘と利根川に囲まれた自然豊かな神栖市は、まさに野鳥

の楽園。遠くから来て繁殖や越冬をする渡り鳥(夏鳥・冬鳥)、通過するだけの旅鳥、季節によって移動する漂鳥、そして一年中よく見かける留鳥まで、四季折々にさまざまな野鳥を見る事ができます。また、海鳥や水辺の鳥が多いこと、絶滅危惧種や珍しい野鳥がいることも特徴です。もしバードウォッチングをしてみたいと思ったら、冬はおすすめの季節。渡り鳥や漂鳥など種類や数が多いだけでなく、落葉樹の葉が落ちて見つけやすくなります。特に水辺にたくさんいるカモは、探す苦労もなく初心者でも観察を楽しめそう。そこで、さっそく神之池へ行ってみました。

### 冬の神之池でカモを観察

神之池では、数え切れないほどのカモが水面にのんびり浮かんでいます。池のほとりには、日なたぼっこをしているカモたち。よく見ると、くちばしの形、頭の色、羽の模様などがいろいろあることに気がきます。やがて数羽が一列に並んでトコトコ遊歩道を渡り、広場の方へ歩いて行きました。

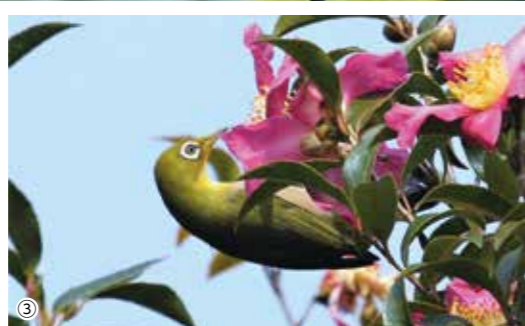
いつもよりちょっと注意深く見るだけで、野鳥への興味がどんどん膨

らんでいきます。もっと詳しく知りたくなって、波崎愛鳥会会長の柳堀弘さんに教えてもらいました。

「神之池のカモ類は、10月ごろに渡ってきて3月ごろまでいます。普通の年は5000羽くらいで、去年は少なくとも2224羽、一昨年は1万2639羽もいて一面カモだらけでした。昼間は池でゆっくり過ごし、夜になるとグループで飛び立って利根川の田んぼで餌を取り、夜明け前にもた戻ってきます」

波崎愛鳥会では毎年1月、神之池でガン・カモ調査をしています。数千羽にもなるカモを数えるだけで大変そうですが、何と20種ものカモを見分けながら数えていると知って

マガモのオスは頭が光沢のある緑色で首に白い輪がある [カモ科・全長59cm・冬鳥]



①市内の野鳥観察ポイントは神之池、利根川河口(小見川大橋付近から河口までの草原や干潟)、日川浜から波崎漁港までの海岸線と語る波崎愛鳥会の柳堀会長  
②ミコアイサのオスは別名「パンダガモ」と呼ばれている[カモ科・全長42cm・冬鳥] ③体は緑色で目のまわりが白いメジロ[メジロ科・全長11.5cm・漂鳥]  
④神之池にはカモの大群が飛来する